



岡山フルートの会会報

2008年6月号 第112号

HP: <http://www.okayama-flute.net/> E-mail: okayama-flute@mail.goo.ne.jp

2008年度総会の報告

去る5月18日(日)に岡山フルートの会総会が行われました。内容は別添の資料をご覧ください。今年度も様々な企画がありますが、皆様のご協力なしには成功しません。よろしく願いいたします！

第10回岡山学生フルート・コンクール実行委員募集！

9月21日(日)に開催される第11回岡山学生フルート・コンクールの実行委員会を、下記のように開きます。実行委員を希望される方は安達さんまでご連絡ください。

6月10日(火)19:30～ 長谷川楽器店3階ホール

安達さん(実行委員長):090-8993-8543 E-mail: flutekid555@hotmail.com

チャレンジコンサート実行委員募集！

岡山フルートの会の主要行事の一つである「チャレンジコンサート」ですが、今年度も始動します！ 実行委員を募集いたしますので、ご希望の方は下記に連絡をしてください。

チャレンジコンサート(予定):10月26日(日)

能勢さん(実行委員長):090-89913711 E-mail: eriyasu99@ybb.ne.jp

第30回演奏会実行委員会からのお知らせ

実行委員長:熊瀬 好

第30回演奏会の、第1回実行委員会を5月20日に行ないました。30回目の記念演奏会ということで、岡山フルートの会の本会計から特別事業費が計上されました。今回は、岡山県出身で活躍されている柴田 勲さん、柴田真梨子さん(他お二人調整中)をゲストにお迎えます。

アヴァンテの曲目がビゼー作曲「アルルの女」に決まりました。有名な「メヌエット」のソロは、アヴァンテに出演されるアマチュアの方に演奏していただきます(オーディション有り)。引き続き、ルミエール、ジュニアの曲目も決まりますので、楽しみにしてください。なお、セレーナは、熊沢住子先生に新曲を依頼しました。内容は、語りつきの“桃太郎”です。この曲には、柴田さんを初めとするソロ奏者に加わっていただきます。

演奏会実行委員を希望される方は、下記にご連絡ください。

熊瀬さん: kumakuma-family@nifty.com

個人情報の取り扱いについて

岡山フルートの会は、個人情報の取扱いに関する法令及びその他の規範を遵守いたします。取得した個人情報は、以下の範囲内で利用します。

1. 会報の送付
2. 会費の徴収

ただし、電話(固定・携帯)、電子メール、携帯メールについては、その使用を承諾した会員に限定して、入退会及び委員会等の連絡で使用します。なお、個人情報保護管理者は安達さんです。

演奏会のご案内

第15 安達雅彦フルート・リサイタル(岡山フルートの会主催)

7月20(日) 14:00 開演(13:30 開場) 岡山市民文化ホール ピアノ: 芦田 田鶴子
入場料: 2,000 円 曲目: クーラウ / フルートとピアノのためのグランド・デュオ クーラウ / 『魔法の豎琴』ファンタジー 他

倉敷管弦楽団 第34 回定期演奏会

6月22日(日) 14:30 開演(14:00 開場) 倉敷市民会館 入場料: 1,500 円(一般)・1,200 円(学生)
指揮: 金 洪才 会員の小池さんと宮尾さんが出演します
曲目: メンデルスゾーン / 劇音楽「真夏の夜の夢」より プロコフィエフ / バレエ組曲「ロメオとジュリエット」より

1年ぶり! やましんさんの「ちょっと気になるCD」コーナー

山本真悟

おひさしぶりです、みなさん。お元気ですか? さて、映画でおなじみの「蒲田行進曲」ですが、あのテーマ曲はだれが作ったものでしょう? 作詞は堀内敬三氏とのことですが、原曲はチェコ出身で、アメリカで活躍した作曲家ルドルフ・フリムル(Rudolf Friml)の“The Vagabond King”(放浪(者)の王)の中にあります。第一幕がはじまってしばらく進んだ後、主人公のフランソワ・ヴィヨン(歴史上の同人物は中世期フランスの大詩人であり、また犯罪・追放・放浪を含めかなり荒唐無稽な人生を送ったとされる方。ドビュッシーに「F.ヴィヨンの3つのバラード」があります)が周囲の一同とともに歌います。「みな来たまえ、君たちパリの街の貧しい民たちよ...。(原詩は英語、たぶんこんな意味かと...)」と。この歌の後半部分が蒲田行進曲そのもの、にあたる部分なのです。この作品の全曲CDは、私の知る限り、1種類のみ出ています。「オハイオ・ライト・オペラ」の舞台を収録したもので、規模の小さなオケが実にいい味をだして、歌手(役者)の方も、みなさんとっても上手で魅力的です。別演奏の抜粋盤CDも1種類出ていますが、こちらはちょっと大きめの重量級ステージという感じがします。いずれも輸入盤ですが現在もたぶん購入可能だと思います。では、またいつか!

(裏面もあります)

(外国語教育)

スロベニア人、クロアチア人には語学の堪能な人が多い。私たちのバスの運転手はスロベニア人でしたが、彼から聞いたところによると、スロベニアでは小学校低学年からスロベニア語と英語を、そして小学校高学年から第二外国語を学ぶそうです。ほとんどの人が3ヶ国語以上はぺらぺらだそうです。ヨーロッパ中東部、バルカン半島あたりは地続きだから、政治的、宗教的な理由で別の国にはなっていますが、言葉はよく似たものが多い。スロベニアはスロベニア語をクロアチアはクロアチア語を使うと言う事ですが、両方聞き比べてもそんなに違わないそうです。日本で言えば東京弁と大阪弁のようなものかな。お互いが自国語でしゃべりあっても結構通じて困らないそうです。ちなみに「お早う」とか「今日は」などを取り上げてみても、多くの国がよく似た単語を使っています。例えば「今日は」は、スロベニアでは「ドープル ダン」、クロアチアでは「ドバル ダン」、セルビアもモンテネグロもボスニア・ヘルツェゴビナも同じく「ドバル ダン」。マケドニアは「ドバル デン」でブルガリアは「ドバル デン」。ニュアンスは微妙に違うようですが語源は同じ。おやっと思ったのはクロアチア語の「ドブロ ユートロ」(お早う)で、一昨年行って覚えたばかりのロシア語「ドーブラェ ウートラ」と大変よく似ているのは面白かった。

世界共通語に「エスペラント」がありますが、それでも英語はやはり世界一の共通語です。我が国でも、英会話の勉強はもっともっとすべきです。私たちの時代は、英語教育と言えば読み書きだけで、おしゃべりはほとんどしませんでした。最近、小学校でも英会話を取り入れている学校が増えているようで、うらやましいことです。若い方、どんどんしゃべれるようになって下さい。人生の楽しさや価値が、何倍にも広がると思いますよ。

(SAYONARA)

6日目、クロアチアの南端ドロヴニク観光の第1日目、現地のクロアチア人の男性ガイドが、集まった我々にいきなり大声で「さよなら」と挨拶したのはどっと大笑い。「こんにちは」と間違えたのでしょう。こちらでは2~3年前から少しずつ日本人観光客が増えているようで、「ありがとう」とか「さようなら」のような日本語をホテルのボーイなどから、たまに聞く事が出来ました。ちなみに日本語の話せる現地ガイドは、現在のところクロアチアには一人も居ないそうです。町なかのレストランなどには、細い小さな袋に入った「爪楊枝」が置かれているところがあって、その袋に「SAYONARA」と赤いローマ字で書かれたのを見つけて苦笑しました。「さよなら」が彼等の知っている日本語の全てなんだな。しかし旅先で疲れた体を休めようと、ようやく席に着いたのに、もう「さようなら」はないだろう。同じ書くのなら「KONNICHWA」とか「ARIGATO」とか書いて欲しいものです。

このレストランの窓際で、若者たち数人が、にぎやかに談笑しているのに出くわしました。私は思い切って彼らに近づいていって「私は日本人だが君たちはクロアチア人か？」と話しかけてみた。すると彼等の中の一人が「ダー(そうです)」と答えた後、「クロアチアはどんなでしたか？」と言ってきたので、覚えたばかりのクロアチア語で「ドブロ！ドブロ！（すばらしい）」と手を振りながら大声で答え

てやったら、彼等みんな大喜びで立ち上がって握手してくれました。ヨーロッパも南へ来るほど、そして内陸より海岸地帯ほど、陽気で人懐っこい人が多いようです。これで少しは国際親善になったかな。

(年金制度)

現在我が国では、社会保険庁のずさんさによる「年金問題」が大変な事になっているようですが、外国では如何なんでしょう。次に書くことはスロベニア人のバス運転手から聞いた話です。スロベニアのサラリーマン達は、日本のように60歳とか63歳と言うような定年制は無く、その代わり通算35年働けば政府から年金がもらえる事になっているそうです。35年勤めれば年齢に関係なく年金がもらえるので、その時を楽しみに皆んな頑張っているようです。さらにドライバーとか警察官とか軍人など長時間の勤務や危険な仕事に携わっている者は、その年限が短縮されます(例えば、3ヶ月を1年と見なしてくれる)。だから50代前半で、さらに40代後半で年金生活に入る人もいます。若い時しっかり働いて、人生の後半を優雅に、悠々と楽しむ人も多いと聞く。国民性もあるのでしょうか、彼らは人生を最大限に楽しむために働く。以前旅行した北欧の人達も、長い夏のパカンスを、セカンドハウスでの生活や自家用ボートでの運河の旅のために、1年間の収入を全て使い果たすと言う。もっとも預貯金が無くても、医療費や教育費など社会保障がしっかりしているからでしょうが。心豊かで勤労意欲も増すだろうなあとうらやましく思った事でした。

(スロベニア、クロアチアの印象)

旅の最終日、添乗員が我々に旅の印象を質問されました。ほとんどの人の答えをまとめると次のようでした。「一、これまで内戦の多かった旧ユーゴスラビアの暗いイメージは全く無くて、明るい、平和な気分が満ち溢れていた。二、これまで旅行した西ヨーロッパ諸国と比べると、非常に安全な国だった。持ち物を手から離しても、忘れ物をしても必ず届けてくれそうな温かさがあった。三、精神的にも経済的にも、豊かな気持ちが伝わってきた。」等々でした。大学卒の初任給は7~8万円だそうです。物価が安いので、それほど貧しさは感じないそうです。又、食べ物の自給率も高く、数多くの自然国立公園にも恵まれているし、アドリア海沿いの美しいビーチにも簡単に行くことができるし、皆さんが豊かな生活を楽しんでいるように思えました。こんな所に別荘でも持ちたいなあ。夢の夢か。

会報係りから

演奏会案内、お知らせ、コメントなどがありましたら、熊瀬さんに連絡してください。

熊瀬さん:kumakuma-family@nifty.com

【会報の封筒詰めのお知らせ】

7月号の会報の封筒詰めを、7月1日(火)午後7時から長谷川楽器店3階ホールで行います。
会員の皆さまには、是非、封筒詰めのお手伝いをお願いします。